

ビーエー液剤によるリンゴ樹側枝の発出促進

研究のねらい

わい化栽培においては側枝が多く発出した苗木を植栽すると早期に結実させることができ、また、将来の樹形構成も容易になる。高接ぎ更新の場合においても、側枝が多いと品種更新が早まる。そこで、側枝の発出を促進する効果のあるビーエー液剤の利用方法を明らかにする。

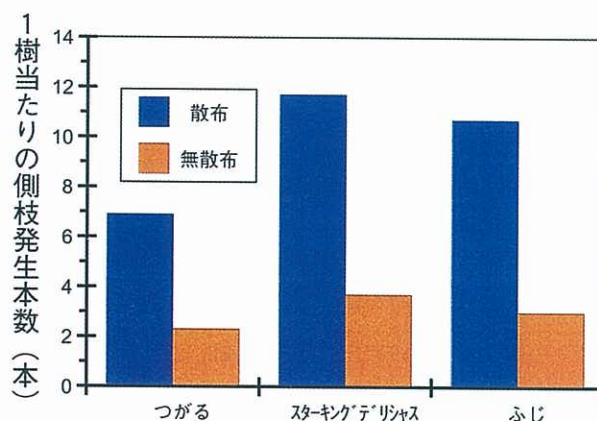
研究の成果

苗木、あるいは高接樹の接ぎ穂に、ビーエー液剤(ベンジルアミノプリン液剤)を、‘スターキングデリシャス’、‘ふじ’、‘ジョナゴールド’及び‘北斗’では100倍、‘つがる’、‘王林’及び‘千秋’では50倍で下記のように散布すると側枝(フェザー)が発出する。ただし、ビーエー液剤は葉の着いていない芽には散布しても効果がない。

接ぎ木当年苗では新梢が50～60cmくらい伸びた時期に、地上50cm以上の全葉に散布する(遅くとも7月末まで行う)。接ぎ木2～3年目の苗木では、主幹の側枝の足りない部位の短果枝葉や心枝全体の葉に、6月上～中旬に散布する。また、高接樹では新梢が30～50cmくらい伸びた時期(6月中～下旬)に接ぎ穂の新梢全体の葉に散布する。



ビーエー液剤散布2週間後ころから枝(フェザー)が伸び始める。



第1図 接ぎ木当年苗に対するビーエー液剤散布効果

発表資料

1. 栽培部 (1984). ビーエー液剤によるリンゴ樹側枝の発生促進. 昭和59年度指導奨励事項・指導参考資料: 82-84.
2. 外崎武範 (1984). リンゴ側枝の発生促進法 ビーエー液剤の効果と使い方について. 青森農業 35(6): 53-57.
3. 外崎武範 (1985). ワンポイント技術3 ビーエー剤による側枝の発出促進法. 青森県りんご協会. 11p.